

令和6年度 墨田区立第四吾孺小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

07 03 12 校長 清水 雅也

学校教育目標	◇健康で心豊かな子 ◇よく考え進んで実行する子 ◇力を合わせてつとめをやりとげる子 ◇礼儀正しい子
目指す学校像	◇学ぶ力が伸びる学校 ◇連携・発信する学校 ◇安全・安心な学校
目指す児童像	◇元気でいきいきと学び、運動する子供 ◇協力し合い、認め・高め合う、共生社会の担い手となる子供 ◇地域・社会に貢献する礼儀正しい子供
目指す教師像	◇自ら学び、自己研鑽する教師 ◇教育公務員としての自覚をもち、保護者・地域社会の期待にこたえる教師 ◇「褒める・認める・きちんと諭す」ことができる、あたたかく、厳しく、情熱的な教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容

①学ぶ力が伸びる学校  
◇交流行事・授業を通して障害に対する理解を深めるとともに、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。

②連携・発信する学校  
◇「地域で学ぶ・地域から学ぶ」を合い言葉に、地域教材の開発と地域学習の単元科を推進する。  
→大学連携、商店街に関する学習、防災学習 など

③安全・安心な学校

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	○主体的対話的に学びながら、確かな学力を向上させるために、意図的計画的な取り組みを行う。 ①興味関心をもって取り組める地域教材の開発と単元化の推進。	①地域で学ぶ・地域から学ぶを合い言葉に、町会・商店街・大学などの諸機関と連携した学習単元を開発し、校内研究授業を年3回実施する。	4 教・保・児ア「わかりやすく楽しい授業・学力向上」 80%以上	4	4 ①研究授業実施状況 事前研究会を含め年間3回実施	4	◇地域関連学習を中心に、興味関心を高める授業を展開できた。 ◆基礎・基本事項のさらなる定着が必要。	◇区・研究協力校の指定を受け、地域教材開発・単元化を推進する。 ◇学習支援員の配置方法を工夫していく。	A	A	◇毎月の研究活動への積極的参加の継続を願う。 ◆低学年を中心に、基礎基本のより一層の定着をお願いしたい。
			3 70%以上		3 授業・協議会3回						
			2 60%以上		2 授業のみ3回						
			1 60%未満		1 授業3回未満						
	②タブレット端末の効果的な使用の推進。	②タブレット端末等のICT機器を活用したGIGA構想ステップ2の授業・学習を展開する。	4 教・児・保ア「タブレットを活用した学習推進」 80%以上	4	4 ②ICT機器の活用状況 毎日活用（週5日）	4	◆ネット利用のマナー向上を図る必要がある。 ◇デジタルとアナログの特性を考慮した効果的な指導の工夫が必要。	◇ネットマナー教室を全学年で複数回実施。 ◇タブレットとノートを学習の特性に応じてより効果的に使い分ける指導方法の研究を推進する。	A	B	◆デジタル機器を利用した学習に加え、集団学習での話し合い、意見集約などの学習も重視してほしい。 ◆デジタル機器活用成果・結果が見えにくい。
			3 70%以上		3 週4日程度						
			2 60%以上		2 週2日程度						
			1 60%未満		1 それ未満						
	③朝学習・放課後補習等の充実。	③9月より、下学年は新チャレンジ教室（週2回）、上学年は放課後補習教室（週2回）を実施する。	4 教・保・児ア「わかりやすく楽しい授業・学力向上」 80%以上	4	4 ③教室実施状況 週2回計画通り	3	◆補習などに加え、通常の授業時間内でのフォロー体制を充実させる必要あり。	◇個の特性に応じた教材の準備をより丁寧に行う。	A	A	◆低学年を中心に、基礎基本のより一層の定着をお願いしたい。
			3 70%以上		3 計画の80%程度						
			2 60%以上		2 計画の60%程度						
			1 60%未満		1 計画の60%未満						
	④読書指導、調べ学習の充実。	④図書館司書（読み聞かせ・ブックトーク）、地域図書館と連携（団体貸し出し、見学等）し、読書及び調べ学習の充実を図る。	4 教・児・保ア「図書館活用、読書指導」 80%以上	4	4 ④司書、地域図書館の活用状況 双方とも年間3回以上実施	3	◇読書冊数は、1名あたり念か70～100冊であり比較的良好。 ◆タブレットに頼った調べ学習が展開されている傾向がある。	◇図書館司書と連携した読書推進の取り組みを全校展開する（地域書店との連携学習など）。 ◇調べ学習での図書資料の活用を奨励する。	A	B	◆図書室に入室できる時間帯を増やすよう努力してほしい。
			3 70%以上		3 計画の80%程度						
			2 60%以上		2 計画の60%程度						
			1 60%未満		1 計画の60%未満						
○特別な支援を必要とする子供に対して、組織的な支援を行う。 ①連絡会議の定期開催と迅速な対応。	①要支援児の実態を把握する連絡会議を月1回実施し、適切な指導を即時行う。	4 教・保・児ア「特別な支援を要する児童への対応・指導」 80%以上	4	4 ①特別支援委員会開催状況 月1回+適宜	4	◇特別支援委員会・生活指導朝会での情報共有化が有効であった。	◇継続	A	A	◇学校行事等で見せられる思いやりあふれる言動に感心させられる。 ◇四吾孺小の「みなが一緒」という姿勢は大切なことである。	
		3 70%以上		3 月1回							
		2 60%以上		2 隔月							
		1 60%未満		1 それ未満							
②通常学級と特別支援学級、および医療的ケア児との交流によるインクルーシブ教育の充実。	②交流授業を積極的に実施し、社会性・障がい理解等の伸長を図る。 ◇体育的・学芸的行事、特活等を中心に常時実施。共生社会の担い手となる児童を育成する。 ◇医療的ケアが必要な児童については、実施検討委員会を中心に意図的・組織的な教育活動を計画推進する。	4 教・保・児ア「特別な支援を要する児童への対応・指導」 80%以上	4	4 ②学習・行事での交流状況 学習・行事とも実施	4	◇「交流学習+逆・交流学習」の効果あり。	◇交流学習の際、介助員・支援員などのフォロー体制を強化する。	A	A	◇支援学級と通常学級の授業交流は、児童の相互理解と学習意欲向上に効果がある。	
		3 70%以上		3 計画の80%実施							
		2 60%以上		2 計画の60%実施							
		1 60%未満		1 未実施							
③関係諸機関との連携。	③連絡会議等で困難と判断された場合、専門機関へ対応の協力を要請する。	4 教・保・児ア「特別な支援を要する児童への対応・指導」 80%以上	4	4 ③必要に応じて、躊躇することなく連絡し、協力を要請する。	4	◇SC・SSW・子育て支援センターへの早期対応依頼が効果的。	◇各機関担当者との連絡・連携を密にし、円滑な協力体制を継続する。	A	B	◆保護者・家庭の問題で不登校にとなっていることも多い。民生児童委員などの外部人材・機関の活用を進めてほしい。	
		3 70%以上		3 区教委からの要請に応じて連携する。							
		2 60%以上		2 区教委・保護者からの要請に応じて連携する。							
		1 60%未満		1 関連機関との連携は未実施							
○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育を行う。 ①大学連携の開始。	①高学年では、IU大学、千葉大学との連携授業を各1回実施。	4 教・保・児ア「地域とともに学ぶ学習」 80%以上	4	4 ①各授業の年間実施状況 全学年1回以上	4	◇千葉大学との連携は計画通りに進んだ。 ◆IU大学との連携は本年度実施できず。	◇大学側への連会依頼をより早期に行う。	A	A	◇地域の特色を活かし、様々な地域機関と連携した学習の機会をつくってくれている。	
		3 70%以上		3 全学年1回実施							
		2 60%以上		2 一部学年のみ実施							
		1 60%未満		1 未実施							
②地域連携の再開。	②中低学年では、キラキラたちばな商店街との連携	4 教・保・児ア「地域とともに学ぶ学習」 80%以上	4	4 ②各授業の年間実施状況 全学年1回以上		◆地域の特色をより広い視点から分析し、新たな連携学習	◇防災担当者、町工場、相撲部屋などとの連携をさらに拡			◇災害時の危険性が高い地域であることから、防災教	

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等			
	授業、まちおこし事業者（けんだま教室）との連携授業を実施。		3	70%以上	4	3	全学年1回実施	3	単元を開発する必要あり。	充していく。 ◇計画立案・連携依頼をより早期に行う。	A	A	育は重要である。 ◇防災士を招いての学習は有効である。	
			2	60%以上		2	一部学年のみ実施							
			1	60%未満		1	未実施							
	③各種ゲストティーチャーを招聘しての授業の実施。	③各分野の専門家による授業を行い、児童の幅広い興味関心を涵養する。	4	4	教・保・児ア「地域とともに学ぶ学習」80%以上	4	4	③各授業の年間実施状況 全学年1回以上	4	同上	同上	A	A	同上
				3	70%以上		3	全学年1回実施						
				2	60%以上		2	一部学年のみ実施						
				1	60%未満		1	未実施						
	○教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組を行う。 ①校内0JTの推進と充実。	①若手とベテランのペアによる0JT指導の実施。 ①研修成果の共有化（研究授業参観を中心とした成果報告の実施）。	4	4	教ア「授業力の向上」80%以上	4	4	①研修成果の報告状況 80%以上	3	◇区・特色ある学校づくり推進校の研究実績が、研究に対する教員のモチベーションを向上させた。	◇来年度より、区・研究協力校（2年間）の指定を受け、研究の深化をめざす。	A	A	◆各学校とも、教師力・授業力が全体的に低下しているように感じる。
				3	70%以上		3	70%以上						
				2	60%以上		2	60%以上						
				1	60%未満		1	60%未満						
	②管理職による授業観察。	②日常的な授業観察＋定期的な授業観察の実施。	4	4	教ア「授業力の向上」80%以上	4	4	②管理職の授業観察状況 80%以上	4	◇定期観察2回＋日常的な観察の実施。	◇日常的な観察を意図的に増やしていく。	A	A	◇今後も、授業力向上の取り組みを継続してほしい。 ◇先生方は、自分の努力・成果を過小評価せず、適正に評価してください。
3				70%以上	3		70%以上							
2				60%以上	2		60%以上							
1				60%未満	1		60%未満							
生活指導等	○いじめや不登校の予防や解決のための、組織的な取組を行う。 ①全教員の共通認識・理解による問題行動の未然防止・解決。	①いじめ・不登校の実態を把握する連絡会議を月1回実施し、適切な指導を即時行う。 ①週1回の生活指導朝会、年3回の児童理解の会により、全教員が全児童の顔・氏名・実態を把握し、共通理解のもとで指導にあたる。	4	4	教・保・児ア「いじめ・不登校対応、相談対応」80%以上	4	4	①連絡会・朝会議開催状況 80%以上	4	◇いじめ・不登校対策委員会の開催回数が増加。	◇小さな案件でも臨時委員会を開催することを継続。教員の危機対応意識をより一層高めていく。	A	A	◆保護者・家庭の問題で不登校となっていることも多い。民生児童委員などの外部人材・機関の活用を進めてほしい。
				3	70%以上		3	70%以上						
				2	60%以上		2	60%以上						
				1	60%未満		1	60%未満						
	②区教委、外部機関と連携し、迅速かつ適切に対応する。	②連絡会議で把握した案件はすべて区教委へ報告し、連携しながら解決にあたる。	4	4	教・保・児ア「いじめ・不登校対応、相談対応」80%以上	4	4	②報告状況 80%以上	4	◇担当指導主事との連携が円滑。 ◇問題が顕在化する前に迅速に対応していただけだ。	◇担当指導主事が直接来校し、事案解決に努力していただいた。学校サイドからの丁寧な情報提供に努めていく。	A	A	◇区教委との関係性がよいことは大切なことである。
				3	70%以上		3	70%以上						
				2	60%以上		2	60%以上						
				1	60%未満		1	60%未満						
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育の充実を図る。 ①「墨田区でイチバン・カッコイイ小学生になる作戦」を実施する。	①校長のリーダーシップによる、「墨田区でイチバン・カッコイイ小学生になる作戦」→「貼る（貼り抜く）、チョキ（いつもニコニコ、いじめはダメ）、パー（パーッとあかるく元気にあいさつ）」を前期中心に展開する。	4	4	教・保・児ア「基本的な生活習慣、楽し学校生活」80%以上	3	4	①作戦の展開状況 講話等で月1回以上とりあげる	4	◇入学式～夏期休業前に、集中的に展開した。	◇さらに楽しく明るい学校生活の実現を目指し、継続的に取り組んでいく。	A	A	◇明るく楽しい学校づくりのため、作戦を継続してください。
				3	70%以上		3	隔月						
				2	60%以上		2	3ヶ月に1回程度						
				1	60%未満		1	それ未満						
②基本的な生活習慣の徹底を図る。	②学校生活の基本「四吾小のよい子のきまり」の周知徹底。 →長期休業明けに生活指導リズムチェックを実施（年3回）し、規則正しい生活習慣の定着を目指す。	4	4	教・保・児ア「基本的な生活習慣、楽し学校生活」80%以上	3	4	②実施状況 80%以上	4	◆特定の児童への対応（保護者啓発など）に苦慮するケースあり。	◇関連機関の協力を仰ぎながら、継続的に取り組んでいく。	A	A	◇生活習慣は、家庭で身につける者である。学校は、できる範囲で努力を継続してください。	
			3	70%以上		3	70%以上							
			2	60%以上		2	60%以上							
			1	60%未満		1	60%未満							
③道徳授業を通して、心の教育の充実を図る。	③毎週道徳授業を中心に、互いの人権を尊重する心を養う。	4	4	教・保ア「道徳、心の教育」80%以上	4	4	③道徳授業実施状況 80%以上	4	◆学校の教育活動全体を通して、児童の言動をより丁寧に見取りながら指導する必要あり。	◇教員の児童観察力の精度・感度を高めるため、管理職からの指導・助言を強化・継続する。	A	A	◇良好な人間関係づくりのためには、大人が人権を尊重し合う社会生活を送り、子供のお手本となるべきである。	
			3	70%以上		3	70%以上							
			2	60%以上		2	60%以上							
			1	60%未満		1	60%未満							
○児童の健康・安全を確保するための各種取組を行う。 ①健康・安全な生活環境づくりの推進。	①月1回の保健指導・安全指導の確実な実施。	4	4	教・保ア「児童の健康・安全に関わる取組」80%以上	4	4	①実施状況 80%以上	4	◇丁寧に工夫をこらした保健指導を実施している。 ◇保健室を「心が安らぐ居場所」となるよう環境づくり等を工夫している。	◇引き続き、保健室が心身の安らぐ場となるよう、環境整備に努めていく。	A	A	◇保健室の取り組みなど、様々な工夫が進められており、学校は子供たちが安心できる環境となっているように感じる。	
			3	70%以上		3	70%以上							
			2	60%以上		2	60%以上							
			1	60%未満		1	60%未満							
②食育・アレルギー対策の充実。	②食育の充実を図り、残菜率の常時5%以下を目標とする。 ②アレルギー対象児童は、年1回の保護者面談を実施。組織的な対応の徹底を確認する。	4	4	教・保ア「児童の健康・安全に関わる取組」80%以上	4	4	②実施状況 80%以上	3	◆残菜率は平均10%程度であり、おおむね許容範囲である。 ◇アレルギー関連の事故なし。	◇和食メニューの残菜率が高い傾向にある。メニューの工夫、学級での指導を継続していく。	A	A	◇アレルギー事故のないよう、慎重に対応を継続していただきたい。	
			3	70%以上		3	70%以上							
			2	60%以上		2	60%以上							
			1	60%未満		1	60%未満							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
学校の管理運営	③防災教育の実施。	③戦災・震災の教訓をふまえた平和学習を年間1回実施する。 ③学校独自の防災体験教室やPTA主催の防災お泊まり会を実施する。	4 教・保ア「児童の健康・安全に関わる取組」 80%以上	4	4 ③実施状況 80%以上	4	◇すみだ郷土資料館との連携による「平和学習」を実施している。 ◇地域人材・組織を活用した防災学習を展開している。	◇郷土資料館との連携は良好。今後も継続。 ◇町会、防災士、PTAと連携した防災学習をさらに充実、継続していく。	A	A	◇地域の特性を活かした学習が展開されている。 ◇郷土資料館とのつながりも大切である。
			3 70%以上		3 70%以上						
			2 60%以上		2 60%以上						
			1 60%未満		1 60%未満						
	○経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営の徹底を図る。 ①分掌組織内でのOJT推進。	①OJTが円滑に進む、職層を意識した組織（複数人員担当制）を編成する。	4 教・保ア「組織的な学校運営」 80%以上	4	4 ①OJT実施状況の報告・確認状況 週1回	3	◇1・2年次教員および指導担当者の研修受講・実施姿勢は良好。	◇指導担当者が責任をもって指導している。 ◇1・2年次教員は主体的に研修に取り組んでいる。	A	A	◇優秀な人材が育っているようで、たいへんよろこばしい。
			3 70%以上		3 隔週1回						
			2 60%以上		2 月1回						
			1 60%未満		1 それ未満						
	②教育活動の適切な実施状況を確認する。	②毎週、校長・副校長2名で週案簿を確認し、教育活動の適切な実施を確認・指導する。	4 教・保ア「組織的な学校運営」 80%以上	4	4 ②週案簿提出状況 100%	4	◇週案は提出率100%。 ◇管理職による点検・助言も100%実施。	◇継続	A	A	◇管理職からの指導を継続・徹底していただきたい。
			3 70%以上		3 80%以上						
			2 60%以上		2 70%以上						
			1 60%未満		1 70%未満						
③主任・主幹の経営参画意識を高める。	③教員の特性・力量を勘案しながら、主幹・主任に学校運営に関わる責任ある役割を与え、参画意識と職務遂行能力の向上を図る。	4 教・保ア「組織的な学校運営」 80%以上	4	4 ③役割を与える主幹・主任の割合（対象9名） 80%以上	4	◇主任教諭選考3名受験、1名合格。 ◇管理職を目指す教員は3名となった。	◇当該教員への指導を強化・継続。	A	A	◇将来有望な教員が育っているようで頼もしく思う。	
		3 70%以上		3 70%以上							
		2 60%以上		2 60%以上							
		1 60%未満		1 60%未満							
○適切な教育目標・学校経営計画の設定及び評価を実施する。 ①児童の実態・区の施策等に即した教育目標・経営計画の設定。	①外部評価、各アンケートを総合的に分析し、毎年度末に次年度目標及び経営計画現化策を再設定する。	4 教・保ア「経営計画の策定、評価の実施」 80%以上	4	4 ①学校経営計画、各評価項目の点検・改定状況 双方とも毎年実施	4	◆本様式導入の初年度であるため、今後検証・改善を図る必要性あり。	◇来年度に向けて、取組目標と評価項目の精選を図る予定。	A	B	◇本年度の反省を活かして、完成度を高めてください。	
		3 70%以上		3 双方とも隔年実施							
		2 60%以上		2 どちらかを毎年実施							
		1 60%未満		1 どちらかを隔年実施							
②学校経営計画に即した評価項目の設定と実施。	②学校経営計画と評価項目の整合性を毎年点検・改善する。 ②児童、保護者、教員アンケート及び外部評価（学校関係者評価）を適切に実施・分析し、学校経営の改善に資する。	4 教・保ア「経営計画の策定、評価の実施」 80%以上	4	4 ②学校経営計画、各評価項目の点検・改定状況 双方とも毎年実施	4	同上	同上	A	B	同上	
		3 70%以上		3 双方とも隔年実施							
		2 60%以上		2 どちらかを毎年実施							
		1 60%未満		1 どちらかを隔年実施							
○教育環境・施設設備等の整備状況の把握と改善を行う。 ①教室環境・施設設備の安全確認の徹底。	①月1回の施設安全点検の徹底（管理職が自らの目で最終確認を行う）。 ①修理・改修が必要な施設については、管理職がその状況や理由を役所担当者に直接説明し、迅速な改善を図る。	4 教・保ア「施設・防犯・災害対応の整備」 80%以上	4	4 ①安全点検実施状況 月1回＋適宜	4	◇安全点検は、定期実施月1回に加えて、校内巡回時にも常時実施。 ◇地域と連携した災害対応体制の充実。	◇修繕・改修対応については、引き続き区教委担当者への要請を強化。 ◇区・地域・学校の連携をさらに進め、災害対応体制の強化に努める。	A	A	◇施設設備もかなり整備が進んだ。 ◇災害避難場所として整備が進んだ。防犯体制も万全に願います。	
		3 70%以上		3 月1回							
		2 60%以上		2 隔月							
		1 60%未満		1 適宜							
②施設設備の有効利用の促進。	②教室・施設の整理整頓を毎月点検・整備する。 ②修理・改修が必要な施設については、管理職がその状況や理由を役所担当者に直接説明し、迅速な改善を図る。	4 教・保ア「施設・防犯・災害対応の整備」 80%以上	4	4 ②安全点検実施状況 月1回＋適宜	4	同上	同上	A	A	同上	
		3 70%以上		3 月1回							
		2 60%以上		2 隔月							
		1 60%未満		1 適宜							
○職員の心身の健康を守る労働環境づくりのを推進する。 ①超過勤務時間削減の推進。	①出勤時刻の記録を分析・提示し、超過勤務月40時間以内の実現を目標とする。	4 教ア「健康・安全に働ける環境づくり」 80%以上	4	4 ①超過勤務実態の状況（40時間以内の割合） 90%以上	4	◆繁忙期には、超過勤務40時間以上の者が2～3名となる。	◇教員個々の状況（職務遂行能力・家庭事情等）に応じて、管理職が指導・助言していく。	A	A	◇リフレッシュを心がけ、メンタルヘルスを保っていただきたい。平日も休んでください。	
		3 70%以上		3 80%以上							
		2 60%以上		2 70%以上							
		1 60%未満		1 70%未満							
②育児休業取得の推進。	②男女を問わずに育児休業を取得しやすい協働的な職場環境・体制の実現を目指す。	4 教ア「健康・安全に働ける環境づくり」 80%以上	4	4 毎月、取得推進を呼びかける	4	◇男性の育児休業取得者は1名。夏期休業期間に取得した。	◇今後も、計画的な取得を目指すよう要請していく。	A	A	同上	
		3 70%以上		3 3ヶ月に1回、取得推進を呼びかける							
		2 60%以上		2 半年に1回、取得推進を呼びかける							
		1 60%未満		1 それ未満							
③メンタルチェックの実施。	③メンタルチェック（年1回実施）の結果を分析し早期発見に努め、必要に応じて早期受診を勧める。	4 教ア「健康・安全に働ける環境づくり」 80%以上	4	4 ③面談等の実施状況 半年に1回以上	4	◇医師などによる要面談者なし。	◇教員個々のメンタル状況を丁寧に観察し、必要に応じて受診等を勧めていく。	A	A	同上	
		3 70%以上		3 1年に1回以上							
		2 60%以上		2 適宜							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
			1	60%未満		1	未実施						
	○学校に関する情報を積極的に発信する取組を行う。 ①学校便り、学校HP、各学級通信等を通して、学校情報を発信する。	①学校便りの充実を図る。 ◇紙媒体とHP保護者ページでの公開を併用する。 ◇写真等を活用し学校生活の様子を可視化する。 ①毎週1回、全学級で学級便りを発行する。 ①HP掲載内容の充実を図るとともに、月2回以上の更新をする。	4	教・保ア「複数媒体での情報発信」 80%以上	3	4	①各種たより・HPでの情報提供頻度の状況 目標の90%以上	4	◇学校生活の様子コーナーを新設するなど、HPの充実に努めた。 ◆各種配布物のデジタルでの配信を希望する声あり。	◇HP充実については継続。 ◇提供する情報の特性に応じて、デジタルとペーパーの配布方法を検討・選択していく。	A	A	◇副校長がアップする情報は、学校の様子がわかり、ありがたい。 ◇情報提供の方法（紙・メール等）は最適な方法を考え進めてください。
		3	70%以上	3		80%以上							
		2	60%以上	2		70%以上							
			1	60%未満		1	70%未満						
家庭・地域連携	○保護者や地域の理解・協力を得た教育活動を推進する。 ①大学連携の開始。	①高学年では、IU大学、千葉大学との連携授業を各1回実施。	4	教・児・保「地域での学習」 80%以上	4	4	①各授業の年間実施状況 全学年1回以上	3	◇千葉大学との連携授業は計画通り実施。 ◆IU大学との連携は未実施。	◇IU大学とのキャリア教育連携は、早期計画・早期依頼に努める。	A	A	◇大学連携は、積極的に進めてください。
			3	70%以上		3	全学年1回以上						
			2	60%以上		2	一部学年のみ実施						
			1	60%未満		1	実未実施						
	②地域連携学習の再開。	②中低学年では、キラキラたちばな商店街との連携授業、まちおこし事業者（けんだま教室等）との連携授業を実施。	4	教・保・児ア「地域とともに学ぶ学習」 80%以上	4	4	②各授業の年間実施状況 全学年1回以上	4	◇区・特色ある学校づくり推進校の研究に取り組み、地域関連学習の充実に努めた。	◇地域と連携した防災学習単元の開発など、新たな地域学習単元の開発に努めており、今後も継続していく。	A	A	◇地域の特徴を活かし、様々な地域機関と連携した学習の機会をつくっていている。 ◇今後も地域の特徴を活かした学習を進めてほしい。
			3	70%以上		3	全学年1回以上						
			2	60%以上		2	一部学年のみ実施						
			1	60%未満		1	実未実施						
	③PTA行事の再開支援。	③PTA・地域行事開催への協力と参加。	4	教・保・児ア「PTA・地域との相互協力」 80%以上	4	4	③PTA活動への協力・参加実施状況 80%以上	4	◆働き方改革推進の関係上、教員の休日行事参加は限定的となる。	◇管理職の参加・出席を継続。	A	A	◇働き方改革の関係で、一般教員の土日行事参加は難しいと思う。
			3	70%以上		3	70%以上						
			2	60%以上		2	60%以上						
			1	60%未満		1	60%未満						
○幼保小中一貫教育の推進。 ①研究授業を含めた新計画の完全実施。	①連携校で年3回の授業公開（10月は本校にて授業公開）を実施。 ◇幼保園との交流（学校見学、保護者会での説明等）の再開。	4	教・保ア「幼保小中の連携」 80%以上	4	4	①連携事業の実施状況 計画の90%以上	4	◇文化中地区幹事校として、連携事業の計画通りの実施に寄与。	◇児童・生徒の交流については、より効率的・効果的な実施を目指す。 ◇教員の授業研究会開催に関しては、年3回実施を継続。	A	A	◇卒業生が文化中地区ふれあい祭にお手伝いとして参加してくれうれしい。 ◇おやじの会、にこの会の行事運営協力は心強い。	
		3	70%以上		3	80%以上							
		2	60%以上		2	70%以上							
		1	60%未満		1	70%未満							
②児童・生徒連携の充実。	②中学校での体験授業（2回以上・部活体験含む）の再開。 ◇あいさつ運動、育成委員会事業等での交流。職場体験の受け入れ等。	4	教・保ア「幼保小中の連携」 80%以上	4	4	②連携事業の実施状況 計画の90%以上	4	同上	同上	A	A	同上	
		3	70%以上		3	80%以上							
		2	60%以上		2	70%以上							
		1	60%未満		1	70%未満							

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

①読書指導の充実について

◇図書貸出冊数は1名の年間平均で70～100冊程度で推移。比較的良好といえる。

◇担任の指導・工夫によって、貸出冊数は1～2割の増減あり。

◇調べ学習に関しては、図書資料の活用に比べタブレット活用の比率がまさっている。図書資料の「よさ（正確性・普遍性など）」を知らせ、活用の機会を増やせるようにしたい。

②デジタルか、アナログか？

項目	取組目標	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	分析	改善方策	学校関係者評価		
									自己評価	改善方策	意見等
	<p>◇学習：タブレット機器の特性（正確性・迅速性）、アナログ教材の特性（感覚的な理解・豊かな表現が可能）の特性を念頭に、より効果的な活用方法を開発・実践していく。</p> <p>◇配布物・各種情報提供の方法に関しても、上記と同様である。</p> <p>③教員の研究活動について</p> <p>◇本年度の「区・特色ある学校づくり推進校」の実績をもとに、令和7・8年度は「区・研究協力校」の指定を受け、地域素材の教材化・単元化のさらなる推進に取り組んでいく。</p>										